

特別研修

月例研究会 議事録 (1 月)

2010 年度第 14 回

報告題名 中国上海におけるスーパーの青果物流通システムに関する研究	
報告者 威廉 (所属分野) 国際開発学	日時 1月27日 午後3時～ 場所 第2講義室
座長 水木 麻人	議事録担当者 福田 哲也
出席者 長谷部、木谷、安江、小山田、両角、米澤、米倉、冬木、伊藤、石井、高篠、阿部、菅井、韓、スチン、八木、宮本、神浦、福田、水木、宮里、渡邊、易、威、王、金(詰)、滝田、タンボウニ、堀、山口、林、泉井、Intan、Sudirman、Lies、金(銀)、黄、小原、片山、佐々木(彩)、澤田、千葉、藤、八鍬	
報告要旨 中国で改革開放後、市場経済の導入・拡大によって、農産物流通は段階的に市場流通へと移行した。更に WTO に加盟後中国の都市における青果物の供給システムも大きく変化した。 本研究では、中国の最大の都市であることともに生鮮食品供給政策「菜藍子工程」がリードしている上海を対象地として、生産、販売、中継流通、小売商業等の各段階における青果物供給システムの変化の様相を概観・分析する。 特に都市の小売商業において大規模な構造変化が進んでいる中で、都市住民への青果物供給の主体となっているスーパーによる青果物の調達行動を分析・検討したい。	

質疑・応答

菅井：日本の場合、生産者の視点から見ると定時・定量・定質が求められる。現在の中国の生産者はそれに対応できるのかという視点で研究するのか。もしくは、また違った視点で研究していくのか。

威：スーパーは、都市近郊の生産地と契約生産をしている。その関係についても調査していきたい。

米倉：スライド 7 枚目に、集贸市场という言葉がある。あまり聞きなれない言葉だがこういう言葉があるのか。

威：中国では使われている。自由市場の前にあった国营市場のことである。

米倉：野菜ハコプロジェクトという言葉が出てきたが、ハコとは何か。

威：野菜を入れるパックのことである。

米倉：スライドの 14 枚目で自由市場が急増、国营の市場が衰退ということがある。国营の市場と自由市場の違いは何か。国营の市場であっても売る人と買う人が市場にやってきて取引をするということは変わらないのか。

威：国营の市場は、改革解放の前にあり、国が直接統制し、農民から一定の量を買って、配分して販売する市場である。自由市場は国からの統制がない市場である。

米倉：国营の市場の場合、ファシリティは国が持っており、取引や価格も国が管理しているのか。

威：国が統一買い付け、統一販売を行う。

米倉：自由市場の場合は、場所も含めて全部民間が決めているのか。それとも、場所は国が用意して運営は民間が行うのか。

威：現在の自由市場には、国营と民営の 2 つがある。場所は国が決めているのも民間が決めているものもある。

長谷部：スーパーに着目した理由がよくわからない。一般的に野菜などの場合、多数の生産者と多数の消費者がいて卸売市場が調整する。しかし、大規模スーパーが出てくるとその影響を無視できなくなるのでそれを分析したいのか。中国はそのような流れになっていない。その当たりがよくわからない。

威：上海を選んだのは、自由市場は外の場合が多いなど様々な問題があつて、政策でスーパーの発展を促進している。

長谷部：大規模な小売業に卸売市場の整備を任せて上手くいくのかというのがよくわからない。

威：現在、卸売市場の整備が完全ではなくて、スーパーは卸売市場からの仕入れは少ない

長谷部：流通システム全体としては変わっていると思う。卸売市場を整備しつつ、スーパーの取り引きをコントロールするような方法のほうが、公共性が保たれると思うが、そのようなことには関心はないのか。

威：卸売市場の発展がスーパーの発展よりも遅れている現状がある。

長谷部：卸売市場を整備して自由市場を機能させれば、農家とか消費者にとってよくなるのではないかと考えているのではないか。スーパーに焦点を当てているのは、研究の方向として本筋でない方に進んでいるように感じるがどうか。

威：今は全体の青果物の流通システムについて勉強しているので、今は焦点がここになっている。

水木：20枚目のスライドで、調査対象として5つのスーパーが挙げられており、一番上のスーパーと一番下のスーパーはどちらも中国のスーパーだが、これらのスーパーの違いは何か。

威：一番上のスーパーは中国のスーパーの中で売上が最も多いスーパーなので選んだ。一番下の城宏スーパーは、90年代にスーパーが合併し大規模なチェーンスーパーが出てきて中小規模のスーパーが倒産する中で、倒産せずに発展してきたため選んだ。倒産しなかった理由としては、当時のスーパーでは青果物の販売が少なく日常商品の販売が多かったが、城宏スーパーが青果物の販売を強化したことがある。このような理由でこの2つのスーパーを選んだ。

水木：外国資本のスーパーと中国資本のスーパーで流通経路に違いはあるか。

威：中国で1番発展しているのはカルフルスーパーで、このスーパーを選んだ理由は中国のスーパーと比べると物流システムが発展しているので、いろいろ勉強できると思い選んだ。

八木：スーパーは、卸売市場を経由する他に、独自に調達する部分もある。そのどちらを重視していくのか。スーパーのどんな取り組みを研究したいのかと思っているのか。

威：現在、スーパーは近郊の生産地からの仕入れと卸売市場からの仕入れがある。既存研究では、上海では2つの仕入れ方法があるが、多くのスーパーでは生産地から直接仕入れたものが多い。しかし、スーパーと生産地間の調達や買い取りに問題があり、また、卸売市場にもいろいろな問題がある。勉強しながら、5つのスーパーを調査していきたい。